

## 平成27年度 飯山市 子ども・子育て会議 会議録（要旨）

開催日時 平成27年 8月 7日（金） 午後1:00～

場 所 飯山市役所 全員協議会室

出席人数 委 員：17名（2名欠席）  
事務局： 5名



## 1. 子ども・子育て支援事業計画について

事務局：(事業計画の概要等説明)

会長：今話のあった計画書について、皆さんの手元にあると思うが、何か意見等はあるか。無いようなので、先に進みたい。

## 2. 保育の拡大の実施状況について

事務局：(保育拡大の概要、7月末までの実績等について説明)

会長：いろいろ数字等あげて説明いただいたが、皆さんの方から質問等あればお願いしたい。

委員：私は子どもを幼稚園へ行かせており、保育の拡大については全く利用しないので重要視していない。数字を見る限りでは、利用状況は思っていたより少ないと感じる。

会長：昨年の計画策定の段階では、もう少し利用があるように感じたが、今日の数字を見ると、意外と少ないと感じる。それは保護者ががんばっているということでもあるのだろう。保育園の立場からいかがか。

委員：利用状況を見てびっくりした。めぐみ保育園では土曜一日保育の利用が、平均して1日20名から25名。8月の申し込みからは40名に増えた。こんなに多いのはうちの園だけなのかと驚いた。1歳6か月未満の入園児数も、公立全園合わせたくらいの利用がある。18時半以降の長時間保育の方では、うちの園は19時半までだが、1日平均4、5人はいる。標準時間、短時間認定の割合は逆。休日は延べ3名で、やはり自園以外の園には出しづらいという要因があると思われる。土曜日の一日保育については、「仕事ですか」と訊いて、「仕事です」と言われれば断るわけにいかないもので、昨年よりはるかに多い。間口を広げて、利用者がいるということは、それだけ成果が上がっているということなのでいいことだとは思いますが、うちの園だけこんなに多いということは、何か要因があるのかな、という疑問は持っている。

会長：まだ4か月経過したところであり、性急に答えは出ないとは思う。

委員：めぐみ保育園さんに質問したいが、最大11時間保育の利用者は今年初めて入園した人ばかりではないのですよね。となれば、今までも通っていて、時間延長になってありがたいと感じている方が多いと、認定の割合が逆という話を聞いて思ったが、たぶんそうですよ

ね。

委員：そうですね。

委員：あと、1歳からの入園ということで保育園へ行って見たが、1歳になるのが一斉に4月、というわけではないので、(随時入園となることから)慣れるまで半日以上泣いていたり、1人泣いていたのが泣き止んだかな、と思うとまた別の子が泣き始めたりと、保育士たちはすごく大変だと思う。園によっては、未満児室が非常に狭い。人数が増えたことで施設の問題も出てくるということを感じた。また、朝子どもを保育園において急いで仕事に行く母親に声をかけた時には、意気揚々とした様子で、受入年齢引き下げの恩恵を受けているのだと感じた。

委員：私もめぐみ保育園に1歳過ぎに出したという経験がある。公立保育園の場合にはもう少し後からだということであったが、今回公立も1歳からに引き下げられて、共働きの家庭にはいい状態ができたと思う。昨日たまたま保育園へ、七夕と夏まつりで行かせていただいた。園児が6名であり、あまりにも寂しい。昨日は地域のお年寄りと小学校の子どもたち10人も参加し、お客さんが40名ほど。保護者の方も元気であった。今は子どもたちはプールが大好きで、水に顔をつけられなかった子もやっとなつけられるようになったという。6人の子どものうち、1人はまだ小さいので小さい子用のプールで遊んでいるが、他の5人で大きなプールを使っていて、他の園と比べると贅沢な使い方をしている。子どもたちは先生方と楽しみながらプール遊びをしていたし、その後のお店屋さんごっこも、人数が少ない中でもきちんとやっていた。いい保育をしていると感じた。

会長：私の地元の保育園に来ていただいた。私自身忙しくてなかなか行けておらず申し訳ないが、いつもお世話になっている。

委員：土曜の一日保育を2回ほど利用させていただいた。共働きの家庭としては非常に助かる制度だと思う。今まではどちらかが休んだり、仕事を入れられない状況だった。また、今年から3番目の子どもが公立保育園に通っている。去年はめぐみ保育園へ行っていたが、兄と同じ園がいいということで転園した。公立で同じ園に通えるという点で、1歳からの受け入れはいいことだし、保護者の負担も減っていると思う。

会長：着実に成果は上がっていると感じる。受入れ側の保育園には、保育士にかなりの負担をかけている。園の立場からいかがか。

委員：保育士の負担になるという点については、仕事であるし、子どもたちのより良い成長を願ってやっていることなので、大丈夫だと思う。保育士が不足しているということは事実なので、その点は確保に向けてやっていきたい。また、ただ受け入れることはできても、小

さい子に合った環境を整備していくという点が課題点。去年はまだ開始前だったので、わからない中での環境整備は進めたが、実際動き出してみると、まだ不足している部分が見えてくる。それらも、みんなで見て、予算の中で工夫して環境を整えていきたいと思う。園長部会で、須坂市の公立保育園、私立保育園と、中野市の公立保育園を視察に行った。また、未満児部会では、3歳未満児を担当している職員が、木島平の保育園に視察に行った。そこで見てきたことを踏まえて、今の状況の中でも工夫して、子どもたちにいい環境を作れるのではないかと検討しているところである。できるだけいい環境の中で、お子さんを安心して預けていただきたい、というのが私たちの気持ちである。

会 長：検討、研究した結果を、是非次回の会議でお聞かせ願いたい。

委 員：先ほどの補足をしたい。育休の観点から、長いところでは3年というところもあるようだが、そこまで長いところはなかなかない。制度上3年あっても、もっと早く復帰するよう求められる場合が多いようだ。そんな中、1歳から受け入れてもらえるのはとてもありがたいという声も多くあり、よかったと思う。

委 員：事務局にお聞きしたい。先ほどの話で、めぐみ保育園は土曜一日保育が非常に多くあり、一日平均が全然違うということであったが、その原因として、どのように考えられるか。

事務局：細かい分析はこれからだが、一つの要因として考えられることは、普段土曜一日保育をやっていない園に通わせている方が土曜一日保育を利用したいとなると、やっている園へ布団を移動させなければいけない。そこがネックとなっていて、土曜一日を利用したい場合には、当初からめぐみ保育園へ通わせれば、そのままの園で土曜一日保育を利用できる、という点が大きいのではないかと。また、夕方の延長保育もめぐみ保育園では19時半まで利用できるため、仕事が忙しく延長保育も遅くまで、土曜も一日預けたい、という方がめぐみ保育園を利用しているのではないかと考えられる。

委 員：施設設備や保育士の数等で影響している部分はあるか。

事務局：土曜一日保育に関しては、特別必要な設備もなく、保育士も適切に配置しているため、その点では問題ないと思われる。やはり、土曜だけ移動するくらいなら初めからめぐみ保育園に通わせたい、という方が多いのだと思われる。

委 員：私は地元の園ではなく、めぐみ保育園へ子どもを出している。子どもは3人いるが、下の子どもは6か月からめぐみ保育園へ預けている。なぜめぐみ保育園にしたかという点、一番は土曜保育の時間が長かったから、という点。地元の園では、当時はまだ午前中しか預けられず、仕事の都合上、15時まで預かってもらえないと困るため、めぐみ保育園を選んだ。この4月からは一日預かってもらえるようになったため、仕事も変えて、土曜日も

18時まで仕事をしている。制度が変わったことは、私個人としてはありがたい。土曜日のめぐみ保育園は、確かに利用が多く、保育士たちは大変そうだと思う。

会 長：制度が変わったことで、保護者の仕事の幅が広がったという例だ。

委 員：年長と、未満児の子どもがいる。保育園を選ぶ際に地域や周りの人たちから言われたのが、「めぐみ保育園にしたらいよいよ」ということ。めぐみ保育園なら、長く預かってくれるし、お母さんの仕事も長くできる、と言われた。私は長く働く必要もなかったのも、近いからという理由で地元の園を選んだ。私自身には、制度が変わったことの影響はない。他のお母さんから聞くことは、土曜一日を預けたいけど、園を移動しなければいけないというところが引っかかっているということ。実際に制度が始まる前にも、拠点園に転園しようか、という方がいた。土曜日も、休日も、そのままの園で利用でき、子どもにとっての負担が少ないのではないかと、というのが理由。結局転園した方はいなかったが、土日の保育に関しては、やはりいつもと違う園、布団を移動しなければならない、保育士もいつもと違う、という点が親として引っかかる部分であると思う。1歳半より早く入れるようになった関係で、今年度地元の園では、未満児が急に増えた。しかし、年少クラスは2人しかいない。未満児は、本来であれば一緒のクラスだが、2歳児クラスと、0、1歳クラスに分かれている。年中と年少は同じクラスでやっている。部屋の定員は13人だと聞いたが、歩くか歩かないかの子と、2、3歳の子が同じ部屋にいるというのは、親としては心配。けがをさせたらどうしよう、という点と、のびのび遊べないのではないかと、という点。このことについては、昨年保護者会長に決まった時から園長と話を進め、部屋を分けることになった。大部屋を4人で使っているが、もともと未満児室として造られた部屋ではないので、部屋にトイレもエアコンもなく、ご飯と昼寝の時だけ部屋を移動している。トイレは、部屋で服を脱ぎ、共有のトイレへ行って使っている。私は構わないが、園長からは直していきたくて聞いている。小さい子を受け入れるということに関して、施設の整備が追いついていなかったのではないかと。

会 長：貴重な意見、ありがとうございます。具体的な部分に関しては、やってみないとわからない、というところもあると思う。

委 員：先ほどの、めぐみ保育園の利用が多いということについては、以前から低年齢児の受け入れを行っていたし、公立では預かれない子どもを受け入れていたということから、数字が大きくなっているのではないかと。これから他の公立保育園でも受け入れられるので、平均的になっていくと思う。自分の子どもは中央幼稚園へ通わせていて、15時に迎えに行くのが当たり前だったので、長時間預かってほしいというのは特になかった。それは両親と同居していて、かつ職場が幼稚園に近かったということが大きかった。今は不景気で、共働きしなければならない場合も多く、保護者は大変だろうと思う。

委員：PTA連合会として、保育園について話し合ったことはない。私個人として数年前に3人の子どもを保育園に通わせていた時は、保育料に苦慮した。今まで8段階だった階層が16段階になったということは、該当者にとっては大変助かるのではないか。めぐみ保育園の利用が多いということについては、皆さんそれなりの理由があつてのことだと思うので、やはり魅力のある施設だということなのだろう。

委員：1人保育園へ預けている。今まで色々な母親たちの話を聞いてきた。いろいろな困る点があり、このままでは飯山に住めない、引っ越さなければ仕事が続けられない、という話も聞いた。今年からの1歳からの受け入れや、保育料の細分化、土日の保育などの拡充は、すごくありがたいことだと思う。実際に利用してみたが、保育士たちが大変そうで、申し訳なく思いつつも、その間仕事をさせてもらっている。保育士もしっかり休みが確保できるように、職員の採用等の面で配慮してほしい。土日祝日の利用が予想より少ないということについては、今年度から始まった制度であり、まだよくわかっていない保護者もいる。また、去年からの仕事を継続されている方については、土日祝日はあまり利用しない方が多いだろうし、急には増えないと思う。私自身たまに休日の勤務があるが、休日保育の申し込み締め切りが早く、休日勤務が判明する頃には締め切りを過ぎていて、利用できなかったことが何度もあった。これについては保育士側の勤務の関係もあり、仕方がないことだとも思うが、利用が少ないことのひとつの原因ではあると思う。

委員：働く母親たちにとって、とてもありがたいことだと思う。しかし、まだPRが不足している部分もあると思う。小さい子どもと関わっている部署としては、長時間預かってもらえるのはありがたいと思う反面、親子のふれあいや愛着等、親子の関係作りが小さいうちに十分にできないと、大人になってからいろいろな問題が起きる場合があるので、休みの日にはしっかり向き合うというように、保育士の方からも指導していただけたらありがたい。小さいころの親子の関係が、大人になってからいろいろな面で影響してくる場合がある。小さいころの心のふれあい、通じ合いを大事にしていただけたら助かる。

会長：幼いころに子どもを抱きしめることが少ないと、成長段階で情緒が不安定になる、という話もある。保育園に預けて働くのは悪いとは言えないが、その分家に帰ったら保育士の何倍も愛情をこめて抱きしめてあげてほしい。

委員：今回の利用状況を見て、土曜祝日の利用が少なくよかったとほっとしている。この制度ができたからとあわてて飛びつくのではなくて、子どものことを考えながら子育てをしてきているのだと思うと、うれしく思う。幼稚園も、90%の母親は働いている。保育の必要性の認定請求をすれば認定が取れる方が多いが、それでも幼稚園を、と言ってくれている。幼稚園は15時までというが、18時まで預かっている。夏休み中も半分の子どもたちは夏期保育を希望している。近くにめぐみ保育園があるので、未満児の散歩を見ると、

すごい人数だと思う。それぞれの立場で、それぞれの子育てをしていくことが大事なのだと思う。ただ、土日祝日の保育を利用している子どもが、平日休んでいるのか、ということには気になる。1週間に7日間保育園に行っているとしたら、子どもはいつ親とふれあうのだろう、と心配だ。親が休みの日にはちゃんと子どもと向き合っていきたいと思う。

委員：土曜も日曜も保育を利用することに関して、7日以上連続しての集団生活は避けていただくようお願いしている。保護者が休みの日には基本的に子どもも休んでいるが、どうしてもという場合にも、その問題点を分かって預けていくので、その気持ちは大事にしていきたいと思う。

事務局：今までの話の中で、参考になる部分も多くあった。施設のことについては、制度が先にスタートし、後付けで整備の検討等している中でも大事なお子さんを預かっているので、可能な部分是对応していかなければいけない。ただ根本的な部分として、他の市町村の、最初から0歳から受け入れる前提で作られた大きな保育園の場合には、部屋等の余裕もあるし、状況に応じて随時融通することもできる。飯山市の保育園は前提が1歳6か月からの受け入れであり、定員もぎりぎりに作ってある。特に未満児室は設備的に追いついていない部分がある。保育士側とも検討しながらできるところから整備していきたい。

委員：めぐみ保育園へ通わせたいという保護者の理由として、めぐみ保育園には、冬囲い等の保護者会の作業がない、ということがある。公立保育園の場合には、冬囲いや、遊具の設置、撤去等を保護者会がやらなければいけない。保護者たちからこのことについての意見ももらっているので、見直していただきたい。私も長野市出身なので、飯山市ではこんなものがあるのかとびっくりした。他のところの園には一切ない。

委員：めぐみ保育園もないわけではない。ただ人数が多いので、出られない人はいいが、出られる人で、草取り、大掃除、保育参加等行っている。

委員：その中に大きい作業はない。雪下ろしは変えてもらったようだが、やはりこういった作業は、共働きが増えているので、負担になっている。

事務局：雪下ろしについては、ほとんどの園で業者に委託している。若い方や、特に転入してきた方は雪下ろしができないということもあり、市としても保護者にお願いするよりは業者に委託したいところである。草取り等の園庭整備については保護者にお願いしたい部分ではあるが保護者数も減ってきて、ひとり親世帯等もある中で、雪囲いの設置、撤去については、シルバー人材センター等に委託できないかと考えている。地区によっては保護者会にお願いしている地区もあるので、要望のある園からにするか、一斉に変えるかは検討していく。今まで保育料改定懇談会で全園の保護者会長から意見を募っていたように、何らかの形で要望を集約するので、そこで意見をお聞きしたいと考えている。

委員：要望として、短時間と長時間の計算がすごく大変なので、現在保護者に不利にならないよう努めてはいるが、何とかならないか。国の制度なので変えることはできないのか。標準時間と短時間の認定を変更する方もちょくちょく出てくるし、あえて変更しないという方もいる。延長保育の時間の集計や計算が非常に面倒である。人数が多く、どの子が何時に迎えに来た、というのを毎日記録するのが本当に大変。国の制度であれば変えようがないのだとは思いますが。

事務局：今言われたことも含め、標準時間と短時間の認定を分ける弊害は、他市でも出てきている。認定も3歳になると認定が変更になるが、クラスはそのままである。だったら最初から年度当初の認定でいいではないか、といった点等。こういったことは県全体で起きていることであるので、県を通じて要望をあげていきたい。

### 3. その他

事務局：(資料の説明)

会長：今説明をいただいたが、これに関して何か意見はあるか。私も若者会議に委員として入っていて、その中に子育てと住宅施策の分科会がある。出生率を上げるには、子育てのできる良い環境がなければいけないということで、いろいろな希望や意見が出ている。次の会議で伝えてほしいこと等あれば、この場で積極的に発言していただきたい。

委員：事務局にお聞きしたい。子育て支援に関して、病児保育については何か話が出ているか。

事務局：この計画書の中にも、病児保育・病後児保育は平成31年までに実施すると謳われている。ただ病児については、今の保育園を改造したレベルではおそらく無理だろうと考えている。病院等に委託する形でないといけないと思われる。費用の面もあるので、もう少し検討が必要である。病後児については実際に要望もある中で、拠点園方式で実施するのか、児童センターの新設に合わせてその中に設けるのか、等の検討を進めているが、いつから実施する、というところまでは進んでいない。

委員：近くの市では病児保育を実施しているところがある。若い世代からすると、サービスが充実した自治体に引っ越そうと考える。遠くの市ならまだしも、隣の市でやっていたりするので、そちらに行こうという気持ちになる。飯山市に若い人を呼び込もうと考えるなら、近くの市がやっていることなので、早急に実施した方がいいと思う。

事務局：若者会議でもそういった話は出ており、近隣と同等のサービスを、ということは言われて

いるので、検討していかなければいけないと思っている。

会 長：現実そのとおりである。予防接種も、保健センター1か所に行かなくても各病院でできるように、それぞれ都合のよい時間にできるように、との要望が出てきているのでできるように改善していかなければならない。こういった意見を言っていた方が、これからの飯山市のためになる。

委 員：まだ子どもが学校にあがっておらずよくわからないが、不安に思っていることがある。娘が来年小学生になるが、飯山市では集団登校や集団下校が初めだけしかない。長野市では集団登校や集団下校が当たり前だったのに、それがないと聞いて不安である。実際不審者を見かけたという話も他の保護者から聞いた。街なかでさえ人の行き来がない中を子どもが1人で歩いていて、もし何かあったらと考えると心配で、仕事を長くできないと思う。友達と来れるところまでは迎えに行こうと考える。長野市では、児童館に行く子は集まって、先生が引率していき、帰りは方向が一緒の子が集まって帰る。姉も、心配で途中まで迎えに行く。人が少ないからこそ心配は大きい。また、通学路も場所によって歩道がなく子どもたちには危ないと思うので、改善してほしい。また、私は雪国の出身ではないので、雪の対策が苦になっている。正直、長野市に戻りたいと思う。飯山市にずっといるのは厳しい。住居の面でも、街なかに借家がない。アパートでは狭い。長野市には3LDKのアパートが結構あるので、そちらの方がいい。

委 員：集団登校、集団下校については、飯山市内でも学校の方針によって違う。飯山小学校区で人通りが少ないと言われると、他の学校ではどうなるのか、というところもある。小学生は、低学年と高学年では活動する時間が違う。集団登校をしてしまうと時間が決められてしまい、低学年と高学年が一緒になるためそれぞれの活動ができなくなってしまう場合がある。それぞれの児童活動を大事にしたいという思いがあり、飯山小学校では集団登校をしていない。子どもが自分の身体を自分で守るということを大事にしてほしい、ということで、そういった教育を家庭と一緒にやっている。

委 員：地区によっては、防災無線で子どもたちの下校を知らせる。それを聞くと、年寄りたちも、子どもを見守るために畑に出たりする。うちの地区では、夏休みに6日間のこども広場というものを実施した。延べ93名の子どもが参加し、延べ106人の大人が協力した。やはり地域の大人たちが、地域の子を育てる意識でいる。地区社協が中心となり、飯山市社協からの援助金で実施している。炭焼きを子どもたちに体験させようということで、事前に大人が山から木を切り出し、子どもたちと一緒に炭を焼く。小学校の校長先生も見に来てくれた。地域で子どもをどうやって育てるか、という考えがある。長野市からきて、まだ見えていない部分が多くあると思うが、地域で子育てをする、という考えがある。コミュニティスクールの中で、地域の見守りということで、集団登校は終わっているが、朝夕差点等に何人か立ってくれている。そうした協力してくれる人がいるということが一番だ。

あとは、地区内に子ども見守り隊の看板を出しておく。そうするとそれだけで不審者は警戒する。やはり地区にそれぞれの区長がいるのだから、要望があればあげていくべき。他地区にもあるが、うちの地区も子どもの登下校用のグリーンベルトができた。自分たちだけでやるのではなく、区へあげて、地域でやっていくのが大切。そうすればもっと変わっていくと思う。

委員：今コミュニティスクールという話が出たが、平成29年度までに、長野県のすべての小中学校でコミュニティスクールをやらなければいけないことになっている。地域の方々で、地域の子どもたちをサポートしていこうという仕組み。その中に通学支援というものがあり、うちの小学校では以前から安全指導ボランティアの方々が道に立っていて、通学や休日にも見守ってくれている。保護者の方も、都合のつく時間に都合のつく場所でいいので、道に立ってくださいとお願いしている。みんなで通学の安全を図ろうという雰囲気の中で出来ているのを感じる。

会長：きっと気づかないだけで、近所の方が見守ってくれていると思う。飯山も捨てたものではない。私の地区の場合には不審者よりも獣の問題。朝早く通学路に熊が出て、スクールバスを子どもの家の近くまで回してもらおうようにした。このように、地域の人は危険が無いように見ている。「共助」の部分で、地域で子どもを育てようという気概が飯山市には強くあると思う。私も外から来た人間なので、よくわかる。

委員：やはり心配。私が中学生の頃、友達が、朝の部活の前に車に引きずり込まれるという事件が起きた。また、娘とプールに行ったとき、シャワーの場所で脱がせてしまったら、不審な人物がずっと付きまどってきて、そのうち写真まで撮られたことがあった。私も過敏になっている部分もあると思うが、何かあっては怖い。集団登校、集団下校については、今日校長先生が来られるということで、聞きたかった。

委員：出生数はどのように変化しているか。今日この場では数字がないかもしれないが、保育園も出生数が少なくなれば、費用対効果の面で様々な検討が必要になってくると思う。

事務局：今日この場には数字はないが、人口変化に関することについても、別に検討は進めている。

委員：一つの園の園児数が減るので、統合などの動きが出てくるのは予想できることだ。統合が進めば、その分延長保育、土日祝日の保育などのサービスの充実が可能になると思う。保育園数を減らすことによるサービスの充実も検討していくことが、ニーズに応えられることにつながることも考えられる。

会長：若者会議の中でもこういった話は出ている。たくさんある園を集約することで、先ほどの布団を持って移動する、慣れない環境に預けられる、子どもは落ち着かないし、保護者と

しても面倒、ということにも対処できるのでは。集約により人件費が削減できれば、保育料の削減や、環境の充実といった方に経費を回せるという意見もある。将来的な人口減は、飯山市だけでなく日本全体でもどうしようもない問題であるので、そうなるとどこかの段階でそういったことに踏み切らなければいけない。先手先手を打っていかなければ、後手に回ればいつまでたっても、子どもも保護者も、充実した保育がないという感覚を持ち続ける。先手を打って、充実した保育を実現してもらいたい。

委員：児童館、児童センターについて、新幹線の方の工事等が終わったら、飯山地区の児童館の建設を進めるということになっていたと思うので、できるだけ早くお願いしたい。館によっては通路に危険な箇所があり、今年はマイマイガも多く、外で遊べなかった。また、保育園の終了時間と30分のずれがあるということはよく言われているので、検討していただきたい。

事務局：課題として把握しているので、順々に検討して進めていきたい。

委員：今保育園や幼稚園に通っている子どもたちについては、サービスが充実して手が差し伸べられている。しかし、家で子育てをしている家庭に関しては、それほど手厚いことができていないのではないかと。働いている保護者に関しては、施設の充実や時間外保育の充実が図られていると思うが、自分の力で子育てをしたいと思っている親もたくさんいる。小さいうちは自分で面倒を見たいが、働かなくてはいけないという気持ちもあり、そのバランスで悩んでいる親は多い。家で子育てをしたいという保護者に対して、そうできる環境づくりも、保育園の充実と並行して考えていってほしい。たとえば母親の具合が悪くなって自分で面倒が見られないときに、どこに預けたらいいのかと悩んでいる方がいる。

事務局：家庭での保育に関して、今は保健福祉課のサービスや、子育て支援センターといったものもある。今検討しているのは、児童センターに子育て支援センターの機能を持たせ、相談ができる機能を持たせられたら、と考えている。病気で保育ができない場合については、現在も一時預かりで対応できる。情報発信やさらなる充実も進めていきたい。

委員：支援センターでも月に1回相談をやっているが、PRは足りていない。

委員：行きづらいと感じている方は多い。困ったときにどこに行けばいいのか、どことつながればいいのかと悩んでいる。

事務局：「飯山市子ども館」というような形で、子どもに関しては何でも受け入れられる、困ったときに行ける、というようなものができればいいのだが。

委員：支援センターにしても、親子で行かなければいけない。病気ではないが子どもだけ預けた

い、ということも、家で子育てしている方はよくあると思う。一時預かりもうまく調整できずに使えなかったりしている。利用方法がよくわかっていない場合もある。

会 長：予定の時間を過ぎた。これだけは、という意見がなければ終わりにしたい。

事務局：たくさんいろいろな意見をいただきありがとうございました。進行管理ということを見ると、1年経過して実績が出てから意見を頂戴したい。今年度は今回のみで、来年度に入って実績がまとまった段階で改めて会議を開きたいと考えている。大きな変更点等があれば招集することはあるが、今のところはそのように考えている。ただ、ご意見については、会議以外でも随時出していただきたい。